

富士見町景気動向調査報告書

～小規模事業者・中小企業者景況基本調査～

2022年（令和4年）1月から3月

1 調査期間 2022年（令和4）年1月～3月（第4四半期）

2 調査対象 富士見町内小規模事業者・中小企業者

3 回答状況

製 造 業	11社
建 設 業	1社
小 売 業	3社
飲 食 業	2社
観 光 業	3社
計	20社

4 調査項目 ① 3か月前と比べて

② 前年同期と比べて

③ 3か月後の見通し

※ 経営者が受注額（販売額）・売上高・営業利益等から主観的に判断しています。

5 業況DI（Diffusion Index）とはゼロを基準として、プラスの値で景気の上向きを表し、マイナスの値で景気の下向きを表しています。

volume 4

主管 ふじみまち産業振興センター

<概況>

3か月前と比べると全体の業況DIは+27.3から-10.0と37.3ポイント下がり、かなりブレーキがかかっている状態である。その要因は、飲食業及び製造業が全体の数値を押し下げている。

経営者の眼にもあるとおり、飲食業では新型コロナウイルス感染症のオミクロン株により1月下旬から3月上旬までまん延防止等重点措置により自粛ムードがあった。製造業においては、第3四半期では+36.4ポイントであったが、今回の調査では-9.1ポイントであり、下げ幅で45ポイントである。

全体的には下がっているが、小売業については第3四半期よりも+66ポイントであり、明るい兆しもある。

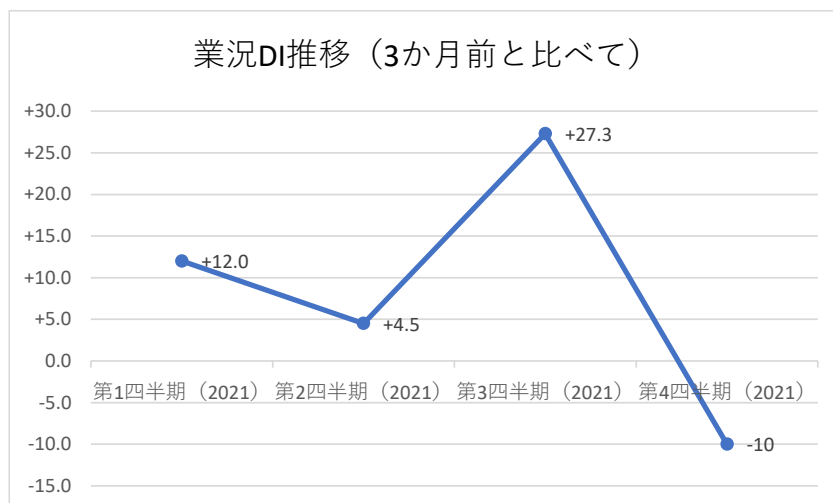
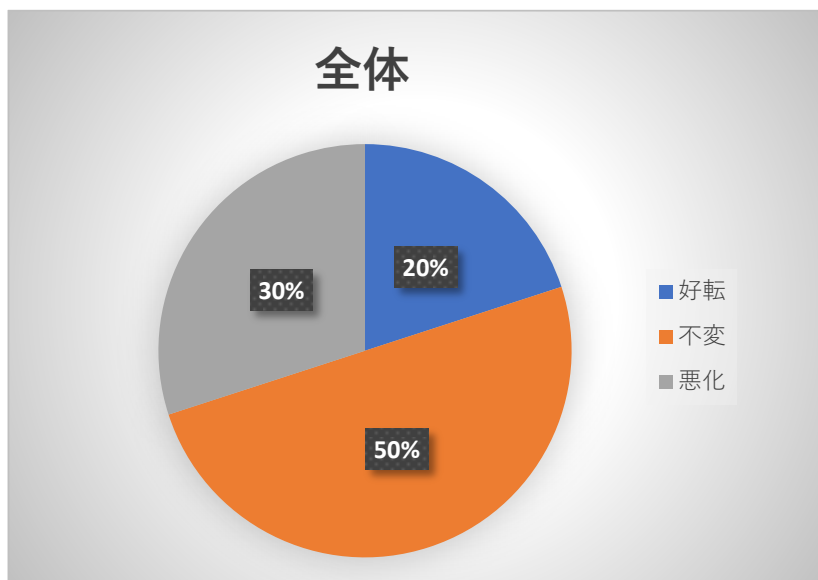
前年同期比では、全体の業況DIは+25ポイントであり、第3四半期と比べると15ポイント下がっている。業種別に見ても小売業以外は第3四半期よりも数値は悪化している。

3か月後の見通しでは、第3四半期と比べてもほとんど業種で改善が期待できる。新型コロナウイルス感染症の発症はゼロにはなっていないが、緊急事態宣言等が出されていないため飲食業や観光業は少し期待が持てる兆しがある。

いずれにしても、今後の懸念材料はロシアのウクライナ侵攻の状況とそれに関連する材料や資材の高騰などが考えられる。これは他の調査機関においても同様の見解である。

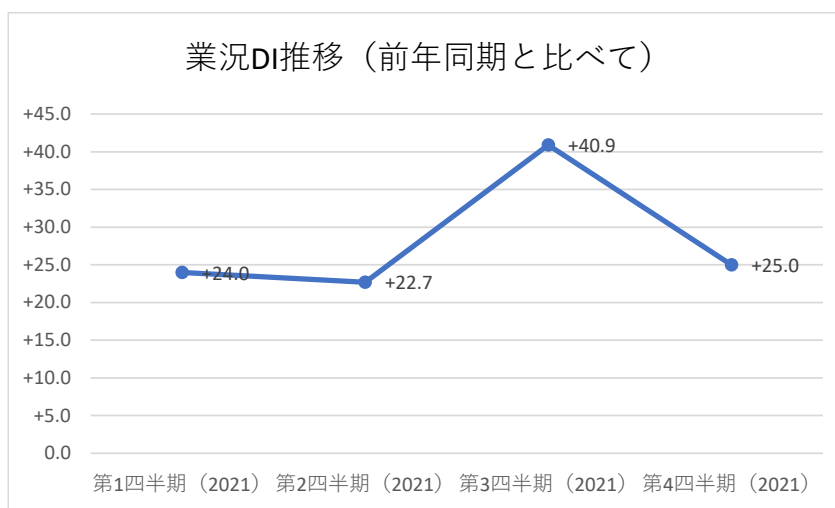
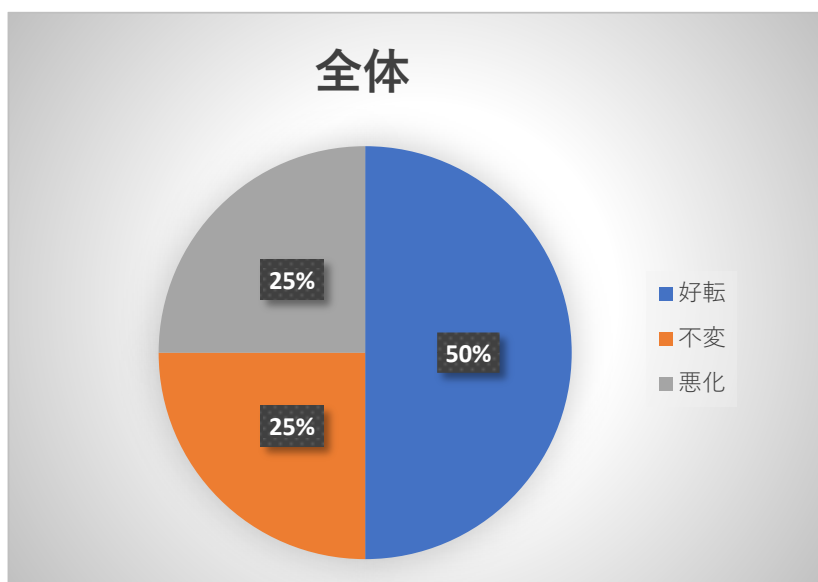
<項目1> 3か月前と比べて

		好転	不変	悪化	計	業況DI	前回調査比
全体	実数	4	10	6	20		↘
	構成比	20.0%	50.0%	30.0%		-10.0	
製造業	実数	2	6	3	11		↘
	構成比	18.2%	54.5%	27.3%		-9.1	
建設業	実数	0	1	0	1		→
	構成比	0.0%	100.0%	0.0%		0.0	
小売業	実数	2	1	0	3		↗
	構成比	66.7%	33.3%	0.0%		+66.7	
飲食業	実数	0	0	2	2		↘
	構成比	0.0%	0.0%	100.0%		-100.0	
観光業	実数	0	2	1	3		↘
	構成比	0.0%	66.7%	33.3%		-33.3	



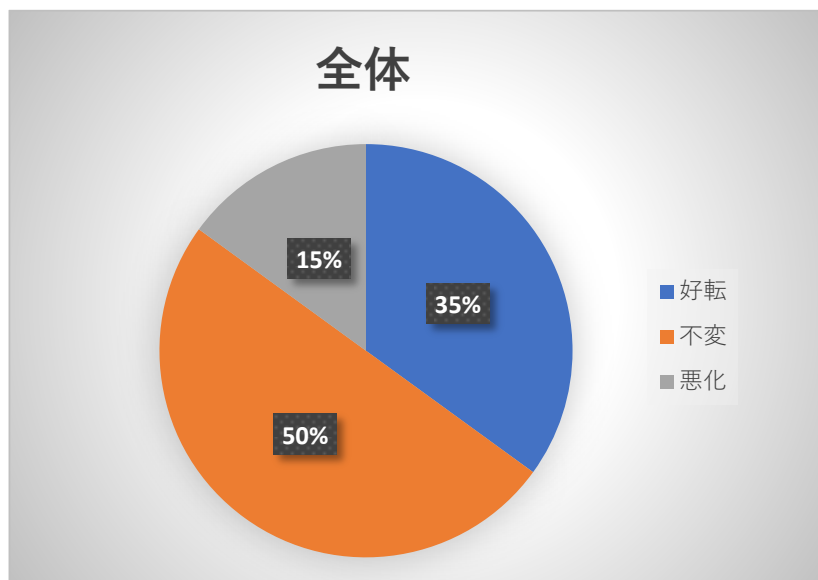
<項目2> 前年同期と比べて

		好転	不変	悪化	計	業況DI	前回調査比
全体	実数	10	5	5	20		↓
	構成比	50.0%	25.0%	25.0%		+25.0	
製造業	実数	6	3	2	11		↓
	構成比	54.5%	27.3%	18.2%		+36.4	
建設業	実数	0	0	1	1		↓
	構成比	0.0%	0.0%	100.0%		-100.0	
小売業	実数	2	0	1	3		↑
	構成比	66.7%	0.0%	33.3%		+33.3	
飲食業	実数	1	1	0	2		→
	構成比	50.0%	50.0%	0.0%		+50.0	
観光業	実数	1	1	1	3		→
	構成比	33.3%	33.3%	33.3%		0.0	



<項目3> 3か月後の見通し

		好転	不変	悪化	計	業況DI	前回調査比
全体	実数	7	10	3	20		↗
	構成比	35.0%	50.0%	15.0%		+20.0	
製造業	実数	4	6	1	11		↗
	構成比	36.4%	54.5%	9.1%		+27.3	
建設業	実数	0	1	0	1		↗
	構成比	0.0%	100.0%	0.0%		0.0	
小売業	実数	1	1	1	3		↗
	構成比	33.3%	33.3%	33.3%		0.0	
飲食業	実数	1	1	0	2		→
	構成比	50.0%	50.0%	0.0%		+50.0	
観光業	実数	1	1	1	3		↗
	構成比	33.3%	33.3%	33.3%		0.0	



<経営者の眼（見方）>

コメント欄	事業所名
受注が増えそうだが、人手がなくて受けられない状況である。	製造業
材料資材の高騰や納期遅延により3ヶ月前より減少。先々の見通しが読めない状況。	製造業
従来海外で生産したものの受注が止まっています。昨年春ごろから夏ごろにかけて思いのほか注文が多かったのが少々おかしいとは感じていましたが、その反動による在庫調整なのか、実需が減少しているのか、明確なところはわかりません。	製造業
7月までは負荷高の状況です。それ以降は見えていませんがその後も順調な状況を見込んでいます。ただ、原材料や輸送費等の高騰や中国のゼロコロナ政策による上海のロックダウンの影響が危惧されます。	製造業
オミクロン株の蔓延により、年明けから来店客も減り厳しい時期だった。前年も時短要請まではなかったが感染拡大していた時期だったので前年と比べると不変でした。11月からの振興券では食事券を作ってくれたおかげで振興券の利用も増え、とてもありがたかった。	飲食業
時短要請があったものの、町振興券や時短協力金のおかげで現状ひっ迫している状況ではありませんが、4月以降、町振興券がなくなり、また仕入価格や経費等の値上がりの為、業績は悪化することが予想されます。	飲食業
ロシアによるウクライナ侵攻戦争で、世界経済に大きく影響が出る可能性がある。不安定要素となる。又仕入れ品の高騰が転嫁できないため経営がマイナスになる。	製造業
製品、部品の調達がかなり滞っているため、販売機会に支障が出てきている。	小売業
ウイズコロナが進み、観光重要の増加に伴い当社売り上げ増にもつながっていくと思われれます。	小売業
コロナに対する世間の対応が若干ですが、変わってきたように感じます。（過度な自粛や制限からの脱却）今後この流れが進めば人やお金の流れが少しは上向くのかな？と感じています。	製造業
コロナ終息し、日常が戻ることを願っています。	観光業
GOTOが再開されたりすると変化があるかもしれない。	観光業
長期的な話はあるが同業者が価格を極端に下げ受注が減っている。脱炭素の金型が国内で受注できれば今後3年間は安定する（発注先 米国）	製造業
個人・民間の仕事はある程度期待が持てるが、公共工事が出てきても必ずしも取れるとは限らないので不安定要素が大きい。県・町の入札制度見直して欲しい。	建設業
現在すでに第7波が心配です。8波・9波が心配です。	観光業